

海に学ぶつどい[クルージング体験]



海に学ぶつどい[クラフト体験]



生涯学習課
主催

夏のイベント



海に学ぶつどい[シーカヤック体験]



少年少女スポーツ体験講座

教科書が決まるまで

—平成十七年度 小学校の教科書が変わります—

公立小・中学校の教科書は無償給付されますが、その採択（使用教科書を決定すること）の権限は学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会にあります。採択方法は「義務教育諸学校」の教科用図書の無償措置に関する法律により定められています。従来、採択地区が設けられ、地区内の市町村が共同して種目（教科）ごとに同一の教科書を採択してきました。これに基づき、葉山町も逗子市・三浦市の二市一町で「三浦採択地区」として共同採択を行ってきました。

平成十四年七月、教科用図書検定調査委員会が、市町村教育委員会と採択地区との関係を明確にする上で、教育委員会の主体的な判断を重視し、採択地区の小規模化を求めました。小規模化の目的は、地域の特色や町立学校の教育課程に適した教科書をより選択しやすくすることにあります。

葉山町教育委員会では小規模化の流れを受け止め、神奈川県に対して「採択地区の変更」を希望する中、逗子市・三浦市教育委員会とともに小規模化の方向を模索してきました。その結果、十六年度の教科書採択について神奈川県教育委員会定例会で二市一町の採択地区変更が承認されました。

葉山町教育委員会は単独での採択にあたり、教科用図書採択検討委員会を五月に設置し検討を重ねて参りました。しかしながら、教科用図書の調査研究については引き続き二市一町合同で行い、採択のための資料を作成しました。さらに、葉山町教育研究会（小学校）による独自調査を並行して実施するとともに、教育研究所において教科書を展示して町民の方々のご意見を広く伺いました。

これらすべての調査・研究をもとにして教科用図書採択検討委員会が協議し、教育委員会に答申しました。教育委員会ではこの答申を受けて八月十六日に臨時教育委員会を開催し、各種目ごとに慎重に審議の上、別表のとおり採択を決定しました。（中学校使用教科書は十七年度まで継続採択）

別表 小学校(17～20年度使用)

国語	光村図書出版株式会社
書写	光村図書出版株式会社
社会	教育出版株式会社
地図	株式会社 帝国書院
算数	学校図書株式会社
理科	大日本図書株式会社
生活	教育出版株式会社
音楽	株式会社 教育芸術社
図工	東京書籍株式会社
家庭	東京書籍株式会社
保健	東京書籍株式会社

仙元山にハイキング!

【出発・葉山町役場→実教寺→仙元山方面→〈休憩〉→階段→葉山中学校付近→仙元山(展望台)・到着】片道約1時間(葉山トンネル付近にもおりられる・約15分)

ワンポイントアドバイス

●ハイキングに適した日

西高東低の冬型の天気の時・風速3~5m/s
〈空気も澄み、歩いていても気持ち良く、遠くの景色もよく見える〉

●仙元山展望台から見える景色 (方位)

丹 沢 山	309°	大 山	308°	塔ノ岳	306°	江ノ島	293°
富 士 山	286°	烏帽子岩	289°	矢倉岳	285°	金時山	280°
明神ヶ岳	279°	明星ヶ岳	275°	神 山	273°	駒ヶ岳	272°
二子山	270°	名 島	261°	裕次郎灯台	257°	真鶴半島	257°
						初 島	243°



持ち物

- リュックサック •お弁当 •おしぼり
- ティッシュ •敷物 •ポリ袋 •軍手
- 水筒(両手を空けるためリュックサックに入れる)
- タオル •救急セット •地図

あると楽しい物

- ポケット図鑑 •双眼鏡 •方位磁石

服装

- 動きやすい服装 •帽子
- はき慣れた滑りにくい靴

●花が咲いていたらそっと香りを楽しもう

- 晴れの日、曇りの日によって香りが違うのか?
- 午前と午後では香りの強さは違うのか?

注意

- 必ず親子で行動する
- 保護者は子どもの様子を常に見る
- へび、ハチに注意する
- 前日が雨の場合は見合わせる
- 滑りそうな場所は手を添える
- 足元をよく見る
- ゴミは持ち帰る(落ちていたゴミも拾おう)



イラスト 沢井 楓 作



親子でハイキングを楽しもう

葉山町青少年指導員連絡協議会 角田 衛



葉山にはハイキングを楽しめる山が多数あります。コンクリートやアスファルトの上を歩きなれている私たちですが、山道などの地面の上を歩くと、足から伝わるそのソフトな感触が心地よく、歩く楽しさを感じさせてくれます。

いろいろな景色を楽しみながら、目線を変えながら、ハイキングを通して、親子のコミュニケーションを深め自然の中に身をおいているいろいろな発見をしましょう。

葉山の貴重な自然が私たちを迎えてくれます。自然を壊すことなく、親子でハイキングを楽しみましょう。